

刊夕日十月一



定価 一部全紙一円五十分 五分紙一円  
 廣告料 五部十二行 一円五十分  
 日曜 祭日の翌日 休刊  
 発行所 常磐毎日新聞社  
 印刷所 常磐毎日印刷株式会社

先づ観て下さい

中村りゆ

(二)

けれども責任を以てお預りして居る先生にとつてはどうして樂園どころではありませぬ、一分間のすきもありません、玄關を入つてからお子さんの歸られる迄緊張の連続です立ちつづけです、あちらかもちらからも引つばられ通しです。幸な事には其緊張はお子さんの爲めばかりを考へての緊張です。自分を忘れ國家社會をわすれ、たゞお子さんのお子さんに對しても春の如き暖かさに接する事が出来るのです。其内でも一番

芝居の看板の文字は勸亭流といつて線を太く字のすき間を少く書いてあるすき間なく客の入るやうにとの縁起からだ。

ノート

心を用ひるのは健康です。傳染病を恐れて幼稚園にやると仰しやる小兒科醫もありませんが、こわい通園させて見て其言のあまりにあたらぬのに感謝して居る母親は可なり多く見受け

られます、でも責任者となるとそんな事位で安心しては居られませぬ、毎年四月には一年間お預りしたお子さんと同年ではじめて入園されたお子さんとを比較する事を忘れませぬ、外見から見た處はどうも幼稚園に通つた人の方が小さい、丈

立献の日明

- 【朝】パントリスト 紅茶 ジャム リンゴ
- 【晝】牛肉付雨煮 小付 富貴豆
- 【晚】ヨクラブコキール 野菜スチユウ

も低い育つても居ないやうに思はれて首をかしげるのですが、いざ身體検査をして肉づきを見ると幼稚園に通つたお子さんの方がガツシツして筋肉に張りがあり、体重も割合に多いのです。たゞこゝろ見た丈では納得が行きませんので今は統計を取つて居ります、何はともあれお家の仕事を早く切り上げて時間をつくり心から幼稚園を參觀して下さいませ。

冷い諦念の檻の中へ  
 青春の全部を閉込めよう  
 と  
 懸命に努力する私  
 と  
 ともすれば、破壊せんとする  
 この檻にふれる手をあやぶみ乍ら――  
 眞の幸福を願ひ祈るが爲めに  
 眞暗な忘却の彼方へ  
 かの面影を追ひやらうと  
 せつない努力をつゞける私  
 胸の小箱に入れかねる若い血と感情を  
 もてあまし乍ら――

今日も又  
 一組の親子達は  
 黙黙として流れて行つた  
 二つの行季  
 二三のふろ敷包み  
 一人の稚兒を背にとぼとぼと  
 何處まで  
 悲しき旅は續くのか  
 おゝ！ 哀れ流轉の人生よ  
 秋の陽は  
 彼等のかげに黄色く  
 細い線を投げかけてゐる

**吉田眼科病院**  
 平野屋町電話六六六番  
 醫學士 吉田久雄

**有給外務員數名募集**  
 一、廿五才以上 經驗の有無を不問男女數名  
 固定給の外旅費支給す  
 御希望の方は履歷書持參來談を乞ふ  
 (明治十四年創立)  
 明治生命保險株式會社  
 平野事務所  
 所長 小野勝康  
 平・仲町

**外科 X 光線科**  
**性病科**  
**外科**  
 入院隨意  
 平野田町  
**安齊外科醫院**  
 電話四七五番

**かまぼこ製造**  
**お茶屋**  
 平野一丁目  
**不孫寅**  
 吉原場  
 電話一四一番

**レコード**  
**五十錢均一賣出し**  
 流行歌・浪花節・何んでも揃ふ勉強店  
**子供レコード**  
 二十五錢均一  
 平野四丁目(マツモトヤ隣)  
**メトロレコード店**  
 電話(呼)二一四番

**貸切の御用命**  
 ぜひ・三井自動車部へ!!!  
**電話六八五番**  
 ◎乗合は好間、合戸、澤渡方面行

**高久病院**  
 院長 醫學士 高久忠  
 副院長 新潟醫學士 赤羽清  
 藥局長 藥劑師 佐竹菊雄  
 平野田町 電話五一三番  
 内科小兒科 外科花柳病科  
 耳鼻咽喉科 レントゲン科

**丹野齒科醫院**  
 丹野淳夫  
**耳鼻咽喉科専門**  
**大和田醫院**  
 平野南町一六(電話七一〇番)

### 平小鐵道の正式決定に

#### 平町長謝電

書の實現に最も力を盡した貴族院議員金成通氏外衆議員議員の鈴木辰三郎、比佐昌平、佐藤庄太郎三氏に對し本日謝電を發したが尙内田鐵道大臣並に鐵道參與官兼田秀雄の兩氏へも左記感謝電報を發した  
『平小鐵道敷設閣議後決定の趣、洵に感謝に堪へず厚く御禮申上ぐ』

### 江名濱の漁船がマグロ大漁

#### 磐城丸の無電に

新春早々大漁氣分横溢

小名濱水産試験場の磐城丸は目下本縣沖合三百哩の地点でマグロ漁に従事して居るが去る八日同試験場に接した無電に依ると江名濱の盛厚丸、清勝丸、万勢丸等がいづれもビン長鮪一千本以上を漁獲して神奈川縣三崎港に水揚すべく航行中であるとの快報に接し江名濱は新春早々大漁氣分に溢れて居る

### 町村長會提出事項

#### 評議員會決定

既報十二日平町役場會議室に開かれる石城町村長支會總會の提出事項は本日同會評議員會にて左の如く決定  
一、十年年度町村豫算編成

昨報平小鐵道の閣議正式決定の吉報に喜色満面の青沼平町長は同計

### 學童等の小遣錢蓄積して一萬圓

#### 平第一校の貯金調べ

平町内各小學校の兒童貯金は毎月第一、第三月曜日二回宛十錢以上を積立て、居るが卒業頃迄には相當多額に上り學費の一部やその他に役立ち一般父兄から喜ばれてゐるが此程平第一小學校に於て加入兒童千三百二十二名の貯金總額を調査した處合計一萬二千七百四十三圓十四錢の巨額に達する好成绩を示して居る因に各學年別の貯金額左の如し  
(一年)六二六、九二(二年)一、一五三、七七(三年)一、五七九、五三(四年)一、五七九、五三

一、改正衆議員選舉法並に關係法令及豫算編成等講習會の件  
一、入營者冗費節約及退營者に軍服着用の件  
一、在仙臺組合石城郷友會館利用の件  
一、町村事務聯らく改善の件  
一、町村吏員互助會補助金拂込方の件

會館利用の件  
一、町村事務聯らく改善の件  
一、町村吏員互助會補助金拂込方の件

### 縣稅滯納嚴重督促

平町昨日現在の九年度後期縣稅滯納者は總數百九十四名、金額千八百六十四圓二十五錢に達して居り近頃町役場から督促狀を發し整理するがその内譯は地租附加稅が百六十二名、千七百六十八圓六十六錢、雜種稅が二十三名、六十五圓七十七錢、家屋稅は五名、二十五圓二十六錢、特別稅が四名、四圓五十六錢である

### シネラリヤ

#### 一鉢が廿五錢 農試分場の温室に

間もなくさきまます

### 優良店舖と徒弟

#### 理髮總會で表彰

平署管内理髮業組合總會は本十日午前九時より平署會議室に開かれ九年度決算並に役員改選を行ひ終つて左記優良組員と徒弟五十餘名の表彰を行つたが平町の表

### 共米初入札

#### 明日平倉庫で

石城販賣利用組合平農倉庫の産米共同販賣は明十一日午後三時より執行される入札米は四等二十二俵、五等六十八俵、等外六十俵、計百五十俵である

### 高麗橋を中心として

(46)

#### 眞木翁の懷古事談

#### 奇傑江政敏(二)

甚しく適々馴れぬ商賈に手を染めたものは忽ち其産を失ふのが尠からずであつた政敏は身に病痾を抱き且つ家情の爲め、海水渡航の望を遂ぐる事が出来ず、悶々の日を送つて居たが、翫然大悟して、自ら謂らく「自我國家を護るものは己に陸軍に非ず、又海軍にもあ

ユキイ 佐藤マサ 宮田  
キミ 根本善一郎 穂積  
秋男 齊藤辰義 岡田ト  
ラ子 大曲直治 戸田忠

加藤清 引地正雄 安齊  
正子 寺門信一 吉田貢  
新妻久義 佐藤良平

### 販賣利用會合

石城販賣利用組合の幹事監査會は來る十三日午前九時より役員會は同日午後一時よりいづれも事務所樓上に於いて開かれ九年度決算並に通常總會開催に就いての協議を行ふ

### 平第一校級長

平第一校の各學年に於ける今學期間の級長左の如し  
(一) 清野光子 岡田  
(二) 渡邊照子 増井ヤス(三) 吉成照子 村上まさ(四) 石和悦子 渡邊なか子(五) 梅森道子 早川和枝(六) 桑原貞子 青木美代子(七) 松本さみ子 關原芳枝(八) 關内満壽子 菅本幹子(九) 田仲マサヨ 鈴木良子(一〇) 川島久藤井満恵(一一) 根本ツネ子 飯塚さと子(一二) 梶原フミ 關内義子(一三) 端山多賀子 大和田順子(一四) 青山佳子 飛田ツヨ子(一五) 石井美智子 栗原フデ(一六) 栗田ケイ子 會澤ヨシ(一七) 鈴木ひて小野文子(一八) 廣澤好子 中條ミチ

# グレ出した

## 正月の常磐線

### 上り急行の遅着超記録

### 乗客からの小言

平驛發午前十時二分の上り二〇二号列車は北海道及び東北地方と東京を結ぶ特急的の使命を帯び殊に平地方の乗客は東京行に至極便益な時間として昨年十二月一日の實施以來非常に喜ばれて居るが仙臺鐵道局管内に數ヶ所の匡救工事があるのと最近の降雪の爲め殆んど毎日の様に遅延し元旦の如き平驛着が一時間と廿三分半も遅れた超記録を示し其上

(五日)一分遅れ(六日)四十二分同(七日)二分同(九日)五分同

女子團員が 本郡聯郡内凶土へ 合第三

方部女子青年團は本郡内の凶作村に贈る爲め過般來特志會員より「金二錢也」宛募集してゐたが合計十五圓になつたので左の如く割當て配附したと

澤渡 三坂坂組合 五圓  
箕輪 永戸組合 四圓  
田人組合 三圓五十錢  
川前 二圓五十錢



お國の爲めなり

わたしも女

銃後のつとめ

働き

### 第一學童行軍 平第一小學校は来る二十五日全校兒童の耐寒行軍を催すと

### 小名料理總會 小名濱料理屋保健組合總會は来る十四日午後一時より同町古港相馬屋に於いて開き九年度決算並に優良組員の表彰等を行ふと

## 娘盛りから

### 放浪の身の末

### 墓地に行倒る

身寄りのない七十老婆

長橋町性源寺境内に昨九日午後六時頃寒さに震えながら老婆が行倒れて居るのを附近の者が發見町役場へ行路病人として引渡したが同人は山梨縣南都留郡東桂村

## 怪賊出沒す

### 同一犯人か?

### 平署が捜査網

内郷村宮の第三小學校教員室へ昨夜十二時頃何者か忍入り各教員の机を開けて物色し萬年筆、鏡、參考書等を窃取し引き千切つたカーテンに包んで逃走更に引續いて今曉二時頃湯本町字八仙坑夫長谷川某方より現金九十圓を窃取逃走した盜難事件あり平署は同一犯人と睨み捜査中である

裁判所たより

△双葉郡龍田村大字井出字木屋一七七 農猪狩千代次(男)は無届で虎挾や箱罟を使用しイタチ八匹を捕獲し狩獵法違反として罰金三十圓

△江名町大字江名字北町三九漁業佐藤長一(三)は昨年十月十三日自己所有の機船長勢丸に雇人四家米彌が乗

### 明日のラジオ

十一日

今朝の部

- 後六、〇の子供の時間
- 「旗源平遊び」新村助嘉
- 後六、二五 農村劇業講座
- 「家内工業の話」吉仲武之
- 後七、三〇 趣味講座「夢の分析」長谷川誠也

今朝の部

- 後八、〇〇 京城より 朝鮮音樂李玉職雅樂部員
- 後八、三〇 長唄 桃川若燕
- 後八、五五 講談
- 後九、三〇 時報 ニュース 氣象通報 番組豫告

### 明日の部

今朝の部

- 前七、三〇 聖典講義「大學一文學」博士秋月胤繼
- 前八、〇〇 伊勢神宮(十一日)御饗祭奉奏舞祭
- 實況宇治山田市内宮五大殿より中繼
- 後八、〇五 吹奏樂 陸軍戸山學校軍樂隊
- 後二、〇〇 婦人の時間
- 「冷え性の婦人へ」醫學博士篠田紘
- 後三、三〇 春場所大相撲

## 不孝者公判

### 親を足蹴にした

平町六丁目ペンキ職鈴木始(三)が舊臘十二日午後五時頃實父芳松(七)を散々毆つた揚句足蹴にして腕その他に全治三週間を要する傷害を負はせた事件は取調への結果實母トク(六)にも重傷を負はせ東京に嫁して居る姉の下に追拂つた事實も判

## 無分別な女中さん

### 死んでお詫びすると

### 遺書を飛ばして家出

平町八幡小路吉田金作氏方女中茨城縣多賀郡大津町西丁佐藤福太郎養女今村美代(二)は去る八日養父宛に主家に對し申譯ない不都合を仕でかしたから死んでお詫びすると不明瞭な遺書を送つて家主を飛出した儘行衛

内郷信組總會 内郷信用組合總會は十三日午前九時より同村家政女學校内に開き九年度決算に就いて協議する

### 平窪信組總會

平窪信用組合の九年度決算總會は本月廿六日午後一時より同村小學校に開く

### 平町人事

△四軒町五 佐久間六良氏 二男仁  
△新川町一八 當時横濱市程土ヶ谷町七六鈴木辰雄氏二男孝雄  
△二丁目長瀬元治郎氏長女淑子  
△三坂村字館下熊谷助二郎氏(三〇)長橋町一七今宮ツヤ(二四)  
△新川町一六 市川ノブ(一ツ)  
△紺屋町一二 當時田村郡小野新町字中道渡邊ヨシ(六八)

### 平職界紹介所報告

△商店雜役 二十前後 尋卒 月十圓  
△手袋内職 四十以下 出來高拂  
△職を求める方  
△女工 三十九才 尋二修  
△採炭夫 二十才 尋卒  
△出前持 廿二才 尋五修  
△小使 五十一才 高卒以上何れも給料面談



# 明治太平記

(禁断断絶)  
上及上流

(作) 寺島証史  
(畫) 野口 滉

## 第二十五回

### 建白書(六)

「天下の一大事でござります。どうぞ、これなる建白書を御披見の程お願い申します」

懐から建白書を取り出し捧げて叫んだ。

「うむ」

じいと、その様子をみおろしてをつた三條公、

「こりや、男」

「はッ」

「これなる馬車へ乗るがよいぞ」

「えッ」

「廓において、太夫の酌で酒のさかなにしよう」

「え、では、おゆるし下さりまするか」

「乗れ」

「ありがたき仕合せ」

そのまゝ、あかづいた汚ならしい素裕の浪人はどぢやう髯たちを尻眼にかけ華麗な馬車に乗り、三條公と差向ひに座についた。

「よく實美であることがわかつたのう」

「はッ、毎度、白晝公然と馬車を驅つて、吉原大門を潜る卿の風流事をきいてをりましたので……」

「どうか」  
三條公は、ふやけた顔を朗かに笑はした。

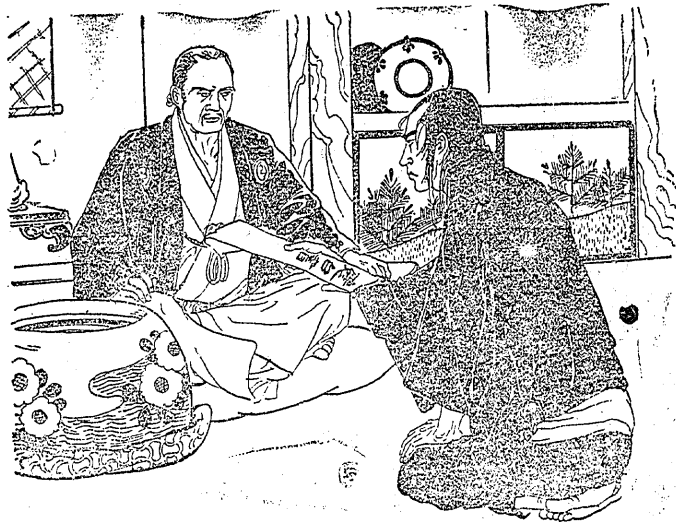
三條公の馴染の樓は角海老。君を迎へてとくにつつた座敷、奥庭に面した總檜づくりの離屋は白晝といへども洋燈の欲しいほど幽

にゆつたり膝を崩してをるのが勿體ない三條實美の卿それと差向ひに膝に兩手をつき、さすがに頭をあげ得ないか、木綿素裕のみすぼらしい大志賀だ。

座敷にはほかに、お供も太夫の姿も見受けられない「で、なにか、横山正太郎の割腹は、美事であつたか」

三條公は、一應、大志賀の物語をきいたのち、そんな事を訊ねた眉毛ひとつ動かさず平靜そのものゝ容子だ。

「はい美事に腹一文字に掻切りしかも虫の息ながらも



暗の構造で、艶な遊女を洋燈にぼつかりうかせて眺める卿の風流を萬遺洩のない裝飾調度品をもつて増長させようとの、角海老樓主の入念さがしのばれる。

書院つき六尺床を背に白綸子のふんわりしたしとね

立派に建白の理由を申述べました」

「うむ、集議院あれども無きが如く、草莽の言の行はれぬ今日唯一片の建白書ぐらゐで、新政府の大官の意中を動かすことは出来ないと承知して、……は遂に死

をもつて諫言しようとしたのだらう」

「御意に御座ります」

「西郷どんが云ふてをられた。横山といふ青年は、なか／＼硬直正廉の士であつて、かつて鹿兒島がイギリス軍艦の攻撃をうけて、兵火に見舞はれ、士族屋敷が大分焼けた時、藩公はそれらの被害者達に救恤金を賜はつた。がその中には選に洩れたものもつた横山はそれを氣の毒におもふて、おのれの貴つた金圓をそつと夜中に、窓から投げ込んでおいたといふ逸話をもつてをる俠氣のある男で真に尊い一人の犠牲者を明治新政府はつくつたものぢやのう。で、とにかく、その建白書を拜見するとうしよつか……」

### 看護婦急派

の求めに應じます

平町南町

平看護婦會

電話三〇七番

一冊の代金で御希望通りな

五冊の雑誌が自由

自由に讀める川崎巡

回文庫

(申込次第規則書進呈)

## 一日一本

大衆を呼びかける  
景品附大特賣



シホ胃腸薬

一、ホシチ胃腸薬金五十銭お買上げ毎に景品券一枚を差上げます

二、賣出期日 昭和九年十二月五日より昭和十年一月十五日まで

三、抽籤期日 昭和十年二月十一日 本社に於て厳正に行ふ

四、抽籤券 一萬枚を以て一組とし各組の番號は共通と致します

五、景品 壹萬枚に對し

壹等 拾圓也 (本社製品中) 五名

貳等 五圓也 (同) 一〇〇名

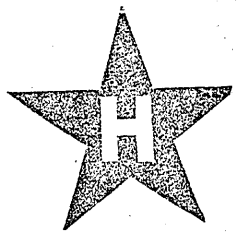
參等 貳圓也 (同) 二〇〇名

四等 壹圓也 (同) 五〇〇名

五等 五拾錢也 (同) 一〇〇〇名

六、景品は新製品マークロ小瓶一個宛全部呈上

ホシチエンストア平支部  
ホシチエンストア一  
同



本品の偽物を賣る藥店があります

東京星製藥會社製と御指定を乞ふ